

2022年度のベンチャービジネス研究所の活動を振り返って

追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所所長 経営学部教授 村上 喜郁

追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所 所長の村上喜郁です。2022年は「北京冬季オリンピック・パラリンピック」、「サッカーワールドカップ2022カタール大会」など、世界的大型イベントの開催など明るい話題がありました。一方で、新型コロナは終息に向かいつつあるものの、他方では、ロシアのウクライナ侵攻のような悲しく、痛ましい事件も起こりました。

経済界においては、新型コロナ、ウクライナ問題などの影響が大きく、バブル経済以来の記録的な「円安」状況に突入しています。日本国内の行動規制は大きく緩和され日本経済は動き出していますが、入出国規制や「円安」により様々な企業活動に影響が見られます。新型コロナウィルスの世界的蔓延以降進んだ、「働き方改革」や「DX」の推進を含め、2020年以降の企業経営環境は大きく変化しています。おそらく、この大変革はビジネスの世界においても、世界の歴史においても後にはエポックに位置づけられることと思います。そして、このような時代こそ、新しい価値が生まれる時代、新しいビジネスが勃興する時代です。本研究所のベンチャービジネス研究、スタートアップ研究がその一助にでもなればと考えています。

2022年度のベンチャービジネス研究所の活動に目をやると、昨年度同様にリモートでの活動を実施するとともに、感染に配慮する形で対面型イベントを一層多くおこなうことが出来ました。春の「第9回 追手門グッズコンテスト」（7月20日）ならびに、秋の「フジテック杯 第13回 追大 学生ビジネスプランコンテスト」（12月20日）は当学経営学部との共催により、オンライン大会として開催いたしました。学部との共催としたことにより、学部教育との協力関係を強め、より多くの学生に参加していただければと考えております。そして、2023年度においては、対面での大会を安全な形で実施できるよう、計画を進めております。また、ビジネスプランコンテスト関連では、外

部講師としてアブリル(株)代表取締役 福嶋伸之氏を招き、10回にわたる学生研究会を実施いたしました。福島先生におかれましては、丁寧な指導、アドバイスを学生にいただき、あらためてお礼申し上げます。

対面イベントについては、3年ぶりの開催となる「第48回 茨木フェスティバル」（7月30日・31日）に茨木商工会議所と共に参加し、市民アンケートをおこないました。この分析結果は『ベンチャービジネス・レビュー 特別号』として公刊しております。また、当学学園祭にて、併設茨木中高等学校主催の中高校生向けコンテスト「Otemon Design Awards 2022」（10月29日）を後援し、私が審査員を務めました。さらに、例年参加する北おおさか信用金庫「きたしんビジネスマッチングフェア」（11月9日・10日）については、研究社会連携課と共同し、全学の社会連携を進められる形としました。同イベントでは、感染に十分に配慮しつつ「ほくせつ探検大学」の学生メンバーが活動発表もおこなっております。最後に、11月26日には、日本フードツーリズム学会と共催し、日本コナモン協会 熊谷真菜会長に登壇いただき、フードツーリズム講演会「地域の食資源としてのコナモンの魅力」を共催いたしました。

また研究におきましては、(株)サイネックスから共同研究「北大阪の元気な中小・中堅企業プロジェクト」、(一財)教育振興財団から受託研究「起業関連コンテンツ制作に関する検討」を新たにお受けしております。

この様に、2022年度は「afterコロナ」の状況を意識しつつ、リモートから対面への一定の転換を進めることが出来ました。これも協力いただいた企業の皆様、学生の皆さん、所員の先生方他のご協力の賜物だと考えております。ここにお礼申し上げます。次年度以降も、本研究所は、「ベンチャービジネス研究」と「地域企業・自治体との連携」に一層尽力したいと考えております。関係各位の皆様におかれましては、ご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

Newsletter

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所

第13回追大学生ビジネスプランコンテストを終えて

審査員 経営学部 准教授 **中野 統英**（ベンチャービジネス研究所所員）

今回は審査員を担当し、ビジネスプランを楽しく聞かせて頂きました。どのグループもアイデアの新規性や実現可能性だけでなく予算や経費等についても考えられており、日頃の学習成果も生かした素晴らしいプランばかりでした。今回は予め作成された動画での発表でしたが、全体構成だけでなく細かい作り込みも含めた動画の完成度は素晴らしかったです。

一方、質疑応答はライブ形式でしたので、各グループの質疑応答等に対する準備の差や臨機応変さ、メンバー内のビジネスプランの理解度の差が大きく出ました。これらの差は「提案するアイデアをどこまで突き詰めて考えたか」という部分で出てくると思います。学生さんに突き詰めて考えようといっても難しいのですが、アドバイスを一つ送りたいと思います。発表内容についてはじっくり考えと思いますが、今後はそこからさらに踏み込んで「もし〇〇という質問がでたらどう答えるのか」ということを質問・審査する側に立って徹底的に考えてください。

そうすると自身のプランの弱点などが出てきて、さらにプランをブラッシュアップすることが出来ると思います。

あと余談ですが、企業等でビジネスや商品の新規アイデアを考えるときに、100個以上考えることがあります。100個目くらいまでは誰でも思いつくアイデアになりますが、そこからさらに無理をして考えて出てくるものが、本当にオリジナルなプランとなる場合があります。ここで出てきた面白いが突拍子のないアイデアについて、実現可能性を考えながら実行していく場合があります。

まとめになりますが、今後発表される際には動画や対面での発表準備だけでなく質疑応答を含めたトータルな準備をすると、より良いプランができ思ったことがさらに伝わります。それと、できれば確実に実現可能なものだけでなく、突拍子もないアイデアにも挑戦してほしいと思います。

末筆になりましたが、皆様の今後のご活躍・ご発展を祈念しております。



4. 売上予想

	1年目 (売上高100%) (単位: 万円)	2年目 (売上高80%) (単位: 万円)	3年目 (売上高50%) (単位: 万円)
売上	450,000,000,000	33,750,000,000	22,464,000,000
光熱費	2700	2160	1350
通信費	3600	3600	3600
雇用費	2400	2400	2400
利益	44,999,991,300	33,749,991,840	22,463,992,650



第9回 追手門 オンライン開催!

グッズコンテスト

アイデア募集中!

採用されればグッズ化の可能性あり

募集期間 2022年 5/2[月] ▶ 6/23[木]

募集内容

部門1: 災害時に有用なグッズ (防災啓発活動を含むアイデア)
部門2: 追手門学院の知名度向上につながる新しいグッズ

応募資格
 追手門学院大学の学生および
 大阪府内の高校に通う高校生

賞・副賞 (QUOカード)

最優秀賞	2万円分	全体より1組
防災アイデア特別賞	1万円分	部門1より1組
優秀賞	1万円分	各部門1組
奨励賞	5千円分	各部門3組
動画賞	5千円分	全体より1組
質疑応答賞	5千円分	全体より1組
高校生敢闘賞	1万円分	全体より1組

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

応募の詳細は [こちら](#)

応募方法

① 下記のホームページから応募ファイルをダウンロードし、必要事項を記入
[ベンチャービジネス研究所HP](https://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture/)

② 応募フォームに応募ファイルを添付して申込み
[コンテスト応募フォームURL](https://ws.formzu.net/dist/S92870568/)

審査方法とスケジュール

○ 第1次審査 (受付期間)
5/20~6/23
 提出された専用の応募用紙を基に審査を行います。

○ 第2次審査
7/20 13:00~
 事前に作成してもらうプレゼンテーション動画と、オンライン会議システムを使って行う質疑応答を基に審査します。発表会と第2次審査の後、結果発表と表彰を行います。

プレ・追手門学生ビジネスプランコンテスト

第9回 追手門

グッズコンテスト

募集要項

本学では、毎年の秋季学期に「追手門学生ビジネスプランコンテスト」を開催しています。これまで、経営学部を中心に多くの学生に参加してもらい様々な素晴らしいビジネスプランが提案されています。さらに望ましいことは経営学部に限らず様々な学部からも参加してもらい、より多くの学生に「ビジネス」に対する関心を持ってもらうことです。そのため、ベンチャービジネス研究所では、コンテストを経営学部以外の学生にも身近な内容にして体験できる場を設けます。これによって追手門学生ビジネスプランコンテストへの関心が高まることを期待します。

募集内容とグッズのテーマ

部門1: 災害時に有用なグッズ (防災啓発活動を含むアイデア)
部門2: 追手門学院の知名度向上につながる新しいグッズ

審査基準 / 第1次審査: グッズアイデア (部門1: 有用性・啓発効果・実現可能性) (部門2: 有用性・宣伝効果・実現可能性)
 第2次審査: グッズアイデア、プレゼンテーション能力

審査員 / 本学ベンチャービジネス研究所の所員・研究員・顧問、および外部の有識者の中から審査委員を選出審査します。

応募方法・提出先

① 下記のホームページから応募ファイルをダウンロードし、必要事項を記入
[ベンチャービジネス研究所HP](https://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture/)

② 応募フォームに応募ファイルを添付して申込み
[コンテスト応募フォームURL](https://ws.formzu.net/dist/S92870568/)

賞・副賞 (QUOカード)

最優秀賞 (2万円分全体より1組) 防災アイデア特別賞 (1万円分部門1より1組) 優秀賞 (1万円分各部門1組)
 奨励賞 (5千円分各部門3組) 動画賞 (5千円分全体より1組) 質疑応答賞 (5千円分全体より1組)
 高校生敢闘賞 (1万円分全体より1組)

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

その他の注意事項

- ・応募されたアイデアの知的所有権は追手門学院大学に帰属します。(アイデアをグッズとして制作する可能性があります。)
- ・受賞したグッズアイデアは、応募者により承得て、概要を公表します。
- ・審査結果の発表後、盗作や虚偽の内容等が判明した場合は受賞失格となります。

審査方法とスケジュール

○ 第1次審査 (受付期間)
5/20~6/23
 提出された専用の応募用紙を基に審査を行います。

○ 第2次審査
7/20 13:00~
 事前に作成してもらうプレゼンテーション動画と、オンライン会議システムを使って行う質疑応答を基に審査します。発表会と第2次審査の後、結果発表と表彰を行います。

フジテック 杯 第13回 追大

学生ビジネスプランコンテスト

オンライン開催

募集テーマ

特別部門 withコロナ、新生活様式でのニュービジネス

一般部門 社会に役立つビジネスプラン・アイデア

応募期間 (1次審査)
 2022 9/9[金]~10/31[月]

ビジネスプラン発表会 (2次審査) [オンライン開催]
 2022 12/20[火] 午後 (予定)

賞と副賞 (予定)

最優秀賞	QUOカード 5万円分	1組
フジテック特別賞	QUOカード 3万円分	1組
優秀賞	QUOカード 3万円分	4組
奨励賞	QUOカード 1万円分	4組
質疑応答賞	QUOカード 1万円分	1組
動画賞	QUOカード 1万円分	1組
高校生敢闘賞	図書カード 1万円分	1組

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

応募資格

近畿2府5県(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県) 畿内圏の高校、大阪府下の大学・大学院に通う学生
 個人またはグループ。
 ただし、大学生・大学院生の場合は、追手門学院大学の学生個人か、1名以上の追手門学院大学学生を含むグループ。

お問い合わせ先
 追手門学院大学ベンチャービジネス研究所 (研究棟6階603 研究所・センターシェアオフィス)
 住所 〒567-8502 大阪府茨木市西成2-1-15
 TEL 072-641-7374 / FAX 072-643-9597
 Email info_vbk@otemon.ac.jp

協賛 フジテック株式会社

共催 追手門学院大学
 ベンチャービジネス研究所・経営学部

応募の詳細は [こちら](#)

フジテック 杯 第13回 追大

学生ビジネスプランコンテスト

募集要項

募集テーマ

特別部門: withコロナ、新生活様式でのニュービジネス
一般部門: ニーズがあるもののこれまで供給がなかった、社会に役立つビジネスプラン・アイデア

審査方法とスケジュール

(1) 第1次審査: 9月9日(金)~10月31日(月)の間に提出された書類を基に審査を行います。
 ・審査結果は11月下旬にメール・大学HPで通知します。追手門学院大学の学生にはCAMPASSQUAREに提示・メール配信します。

(2) 第2次審査: 12月20日(火) 午後 [オンライン開催] (予定) 詳細は追って告知します。
 ・オンライン会議システムを利用して発表会を実施します。
 ・事前に作成してもらうパワーポイントやプレゼンテーション動画など、オンライン会議システムを使って行う質疑応答を基に審査します。
 発表会と2次審査の後、結果発表と表彰をオンライン上でを行います。

審査基準 / プラン・アイデアのオリジナル性・市場性・実現可能性・社会貢献性、及び、プレゼンテーション能力。
審査員 / 本学ベンチャービジネス研究所の所員・研究員・顧問、および外部の有識者の中から審査委員会を設けて審査します。

応募方法・提出先

① 下記のホームページから申込書をダウンロードし、必要事項を記入
[ベンチャービジネス研究所HP](https://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture.html)

② 応募フォームに申込書を添付して申込み
[コンテスト応募フォームURL](https://ws.formzu.net/dist/S16204150/)

賞・副賞 (予定)

最優秀賞 (QUOカード 5万円分1組) フジテック特別賞 (QUOカード 3万円分1組) 優秀賞 (QUOカード 3万円分4組)
 奨励賞 (QUOカード 1万円分4組) 質疑応答賞 (QUOカード 1万円分1組) 動画賞 (QUOカード 1万円分1組)
 高校生敢闘賞 (図書カード 1万円分1組)

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

その他の注意事項

- ・応募プランの知的所有権は応募者に帰属します。受賞したプランは、応募者により承得て、概要を公表します。
- ・審査結果の発表後、盗作や虚偽の事実等が判明した場合は失格となります。応募にあたっては知的財産権等について、第三者の権利の侵害、その他の問題が生じないよう、十分に注意してください。
- ・その他、応募に関して不明な点がありましたら、下記問い合わせ先までお問い合わせください。

お問い合わせ先
 追手門学院大学ベンチャービジネス研究所 (研究棟6階603 研究所・センターシェアオフィス)
 住所 〒567-8502 大阪府茨木市西成2-1-15
 TEL 072-641-7374 / FAX 072-643-9597 / Email info_vbk@otemon.ac.jp

● 趣旨

本学の教育理念(目的)は「**独立自強・社会有為**」です。その実践事業の一つとして、ベンチャービジネス研究所では、学生による「ビジネスプランの作成と発表」の場を設けます。これによって起業家マインドの醸成と起業の正しいあり方の関心が高まることを期待します。

2022年度 ベンチャービジネス研究所主催 第9回追手門グッズコンテスト 最終審査結果発表		
【副賞：QUOカード2万円分】		
チーム名	メンバー	グッズ名
野菜 アブラマシ	辻本 明日香・園 夏歩・原 終翔 清水 壮太郎・野田 剣悠	おぼえっとペーパー
※下線のあるメンバーはチーム代表者		
【副賞：QUOカード1万円分】		
野菜アブラマシ	辻本 明日香・園 夏歩・原 終翔 清水 壮太郎・野田 剣悠	おぼえっとペーパー
【副賞：QUOカード1万円分】		
播州血屋敷	野原 颯太・西島 朝香・小林 愛大 奥村 菜由・高井 翔真・木下 朋香	はがせるおさら
ディフェンダー	小野寺 梨樹・佐藤 愛紀・藤木 郁弥 柳田 怜菜・今石 柚里佳・水谷 颯香	まもるくん
【副賞：QUOカード5千円分】		
Connection	佐藤 愛紀・小野寺 梨樹・藤木 郁弥 柳田 怜菜・水谷 颯香・今石 柚里佳	エンジョイントマット
抱っこ	遠谷 悠香・大西 京汰・ヴォティビック パン・池田 圭駿・福元 芳枝・大崎 怜希	貴重品・睡眠まもる君
ボトルマン	前田 草原・小林 雄貴・中野 朱里 岸田 倭英・井澤 希音・津門 日向実	LEDライト付き浄水ボトル
KKHz	桂花 咲希・善野 莉央 長谷川 優真・片山 直樹	Ancientベンケース
TeesTH	笹倉 舞奈・向井 章悟・中田 結 南野 真那果・高城 樹仁・洲上 楓菜	持ち運びやすい口内ケア3点セット
日焼けしたくない	上田 隼太・本田 楓花・穴吹 龍馬 樋口 万琴・廣岡 美咲・久村 一磨	日傘になる、3wayポンチョ
【副賞：QUOカード5千円分】		
クリンクリン	西島 朝香・野原 颯太・奥村 菜由 小林 愛大・木下 朋香・高井 翔真	ささっとキレイに! 万能携帯クリーナー
【副賞：QUOカード5千円分】		
播州血屋敷	野原 颯太・西島 朝香・小林 愛大 奥村 菜由・高井 翔真・木下 朋香	はがせるおさら

ベンチャービジネス研究所・経営学部 共催 フジテック杯 第13回追大 学生ビジネスプランコンテスト 最終審査結果発表		
2022.12.20開催		
最優秀賞 (副賞:QUOカード5万円分)		
チーム名	メンバー	ビジネスプラン名
キレイズキ (一般部門)	西島朝香・小林雄貴 小野寺梨樹・ヴォティビック・パン	smartゴミ箱探し
フジテック特別賞 (副賞:QUOカード3万円分)		
のこのこ (一般部門)	前田歩美・北野奈央・奥田脩太 城本悠翔・田中健太	カメとの約束
優秀賞 (副賞:QUOカード3万円分)		
突撃!隣の動物はん (一般部門)	勝山光・園 夏歩 山田琴音・辻本明日香	YES!!あったか温もり ペット民泊
マッスル・シンガー (一般部門)	大西京汰・中野朱里 宮城菜緒・宮本陸空	歌いながら走れる 新感覚!人カラオケ
ロゼッタ (特別部門)	日高優月・島野太吾 前田草原・津門日向実	試食を復活させよう!
Break The Mask (特別部門)	小林聖清・清水壮太郎 原終翔・野田 剣悠	相席ビデオ通話アプリ
奨励賞 (副賞:QUOカード1万円分)		
ゆうな (一般部門)	片山直樹・遠田巧・長谷川優真 岸田悠人・崔軒閣	ドラッグ・エア
シナモンズ (一般部門)	寺本恒輝・内藤望ノ花・西森志帆 [関西大学高等部]	rebirthther
GoToPhoto! (特別部門)	嶋田隼太・清水壮太郎・野田剣悠 小林聖清・原終翔	写真で観光業を盛り上げる: フォトベル
学ばせ隊 (特別部門)	吉仲昇平・榎部捷 越智美弥紀・江見知純	地域の習い事を世界に発信!
動画賞 (副賞:QUOカード1万円分)		
お茶っぱ (特別部門)	南野真那果・樋口万琴 水谷颯香・上田隼太	蔵書とティータイム
質疑応答賞 (副賞:QUOカード1万円分)		
キレイズキ (一般部門)	西島朝香・小林雄貴 小野寺梨樹・ヴォティビック・パン	smartゴミ箱探し
高校生敢闘賞 (副賞:図書カード1万円分)		
シナモンズ (一般部門)	寺本恒輝・内藤望ノ花・西森志帆 [関西大学高等部]	rebirthther
※下線のあるメンバーはチーム代表者		

第9回 追手門グッズコンテスト 最優秀賞 野菜アブラマシ「ぼうさい おぼえっとペーパー」

辻本 明日香、圓句 夏歩、原 柊翔、清水 壮太郎、野田 剣悠（経営学部2年）

「第9回 追手門グッズコンテスト」で最優秀賞と防災アイデア特別賞をW受賞させていただきました。そして、私たちはこのグッズプランで賞を戴いたということだけでなく、商品化して防災イベントにて配布といった経験もさせていただくことができました。このような貴重な経験をさせて戴きましたことに、コンテスト関係者の皆様、プラン作成からプレゼンの構成、それから商品化とイベントに当たってアドバイスや準備をしていただいた村上先生、ゼミの先輩方に感謝申し上げたいと思います。

私たちの提案したグッズプラン「ぼうさい おぼえっとペーパー」は、小学生にも分かりやすく、ひらがなで避難方法を語呂合わせしたデザインで、トイレ時間で防災方法を学ぶことのできるグッズです。

防災グッズを考えるのに、まず、色々な災害についての知識、各災害に対する防災知識を勉強しました。そして、どのようにすれば読みやすく、覚えやすいかなども考えながら、改めて防災について見たことで、防災学習がとても価値があることを再確認しました。小さい頃から主体的に災害について学ぶとは、命を守る上で大切です。他にもトイレトペーパーのデザインを考えることにとても苦戦し、プレゼンに関しても、商品化することに関しても、とてもデザインの重要性を感じました。

今回のコンテストを通じて、私たちは何かに取り組む際の行動の手順やチーム在り方、プレゼンに対する情熱、それを形ある物にするため構成し、磨く作業をする。この一連の流れを実践の中で学ぶことができたと感じています。そして、今ある全てを出し切って、得た最優秀賞。さらに、それをきっかけに始まった商品化とイベントによる配布。この経験とその時の感情は、実際に実行した者にしか味わえないことであり、学生生活の一つの財産にもなりました。私たちは、これから何事に挑戦するときでも、この経験を自信として、これからも更なる高み、自身の成長を目指して日々向上心を持って努めていきたいと思っています。



フジテック杯 第13回追大 学生ビジネスプランコンテスト 最優秀賞 キレイズキ「smartゴミ箱探し」

西島 朝香（経営学部4年） 池田 圭駿、山内 みのり（経営学部3年） 今石 柚里佳、高井 翔真（経営学部2年）

「第13回追大 学生ビジネスプランコンテスト」にて最優秀賞をいただきました、チーム「キレイズキ」の西島朝香です。4年間の大学生生活の集大成として参加した今大会にて、このような賞をいただくことができ、嬉しく思うと同時に畏れ多さを感じます。誠にありがとうございます。このような貴重な大会を開催してくださいましたベンチャービジネス研究所の皆様、審査員の先生方、熱意あるご指導をいただいた山下先生、共に戦い抜いたチームのメンバーに心より感謝申し上げます。

賞をいただいたビジネスプラン「smartゴミ箱探し」は、ゴミ箱とアプリ、デポジット制度の三つを開発・提供する事業です。アプリを用いて空いているゴミ箱の位置を探し出し、ゴミ箱にゴミを捨てると、事前に支払っていたゴミの容器代がポイントとして還元される仕組みです。観光地でのゴミ箱の設置台数の少なさや、ゴミ箱が見つけれにくいなどの日常に潜む小さな不便を解決したいと考え、発案に至りました。

ビジネスプランの作成を進める中で、論理的な発表となるように心掛け、何度もデータ収集や話し合いを重ねました。原案の完成後も、内容が主観的になっていないか、聞き手にとって分かりにくい表現になっていないかな

ど、発表内容の徹底したブラッシュアップを行いました。

これらの取り組みを通して、論理的思考力と客観的な意見を取り入れることの重要性を学ぶことができました。ビジネスプランの作成時には多くの課題に直面し、行き詰まってしまうことも多々ありました。しかし、チームのメンバーの的確な意見や、手厚いサポートによって乗り越えることができ、連携を図ることの大切さも実感することができました。

今回、このような賞をいただいたことを励みに、今後も精進して参りたいと思います。この度は本当にありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。



グッズコンテスト入賞作品「ぼうさいおぼえっとペーパー」を製作しました

第9回 追手門グッズコンテスト（2022.7.20開催）の最優秀賞と防災アイデア特別賞をダブル受賞したチーム、「野菜アブラマシ」（経営学部 辻本明日香さん 圓句夏歩さん 原椋翔さん 清水壮太郎さん 野田剣悠さん）が提案した、「おぼえっとペーパー」をグッズ化しました。

このグッズは、トイレ紙にお子様でもわかる防災知識をプリントし、トイレの隙間時間に学ぶものです。グッズ化にあたり、名称をより分かりやすく「ぼうさい おぼえっとペーパー」としました。

本グッズは茨木市の協力のもとで製作されています。子供たちが災害時に慌てないように、知識をつけて安心・安全に対応することで、少しでも茨木地域の防災・減災に役立てられればと願っています。完成を記念して、イオンタウン茨木太田で開催した『OIDAI 地域防震大作戦！！』（2022.11.27開催）の参加者にお配りしました。



たいふうがきたら



- ① ーてんを止める
- ② くんきよほうのかくにん
- ③ えのとじまり
- ④ いしゆつをしない

かじがおきたら



- ⑤ ばやくひきはなれる
- ⑥ せいむくくしてにげる
- ⑦ ちとなまをあらう
- ⑧ おきなこえをしらせる

ぼうさい おぼえっとペーパー

じしんがきたら



- ⑨ けんものからはなれる
- ⑩ くえのしたにかくれる
- ⑪ ⑫ のゆれにそなえる



ひんなんのきまり



- ⑬ さない
- ⑭ しらない
- ⑮ やべらない
- ⑯ どころない
- ⑰ かつがない

ぼうさい おぼえっとペーパー



ほくせつ探検大学活動報告

経営学部 宮崎 崇将（ベンチャービジネス研究所所員）

ほくせつ探検大学は、北摂地域の活性化を目的に北おおさか信用金庫、株式会社サイネックスと提携し、主に情報発信などに取り組むプロジェクトです。日常的な取り組みとして北摂地域の店舗やスポットを取材し、SNS（Instagramなど）、紙（リーフレットなど）、動画、ラジオなどの媒体を通して情報発信を行っています。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大による活動の規制が緩和され、前年度と比較して活動しやすくなりました。

4月初旬に高槻阪急のイベント「高槻マルシェ」に協力しました。高槻マルシェに出店するトマトやたけのこなどの地元の農業生産者を学生メンバーが取材して、紹介動画やチラシ、ポスターを制作し、イベントの店頭で活用してもらいました。

また、3年ぶりに「茨木フェスティバル」（7月30・31日）が開催され、茨木商工会議所に協力してブースを出展しました。そこで、茨木市民アンケートに取り組み、アンケートに協力してくれた来場者にお菓子すくいをしてもらいました。またほくせつ探検大学のSNSをPRし、フォローしてくれた人には追加でお菓子をプレゼントし、学生が作成したチラシを配布しました。

11月9・10日には北おおさか信用金庫主催「きたしんビジネスマッチングフェア」（於マイドームおおさか）に出展し、産学連携プロジェクトとして来場者に活動を紹介しました。

年間を通した取り組みとして、今年度は北おおさか信用金庫からの依頼により、北摂地域の新しいマップを制作しました。北摂地域の基本的な寺社仏閣や公園、公共施設など観光スポットを学生が取材し、マップとしてまとめました。



高槻マルシェのチラシ



茨木フェスティバル



きたしんビジネスマッチングフェア

2022年度ベンチャービジネス研究所 所長・所員・研究員・顧問一覧

役 職	氏 名	所 属 等
所 長	村上 喜郁	経営学部教授
所 員	池内 博一	経営学部准教授
所 員	池田 信寛	経営学部教授
所 員	石盛 真徳	経営学部教授
所 員	稲葉 哲	地域創造学部専任講師
所 員	井上 秀一	経営学部准教授
所 員	岡崎 利美	経営学部准教授
所 員	佐藤 敦信	地域創造学部准教授
所 員	朽尾 安伸	経営学部准教授
所 員	長岡 千賀	経営学部准教授
所 員	中野 統英	経営学部准教授
所 員	朴 修賢	経営学部教授
所 員	葉山 幹恭	地域創造学部専任講師
所 員	水野 浩児	経営学部教授
所 員	宮宇地俊岳	経営学部准教授

役 職	氏 名	所 属 等
所 員	宮崎 崇将	経営学部准教授
所 員	安本 宗春	地域創造学部専任講師
所 員	山下 克之	経営学部教授
所 員	李 建	経営学部教授
研究員	金川 智恵	経営学部教授
研究員	梶原 晃	久留米大学文学部教授
研究員	村田 崇暢	経営学部非常勤講師
顧 問	金森喜久男	一般社団法人 情報セキュリティ 関西研究所代表理事 パナソニック株式会社客員
顧 問	木田 洋一	一般社団法人 広報支援機構理事 岩井コスモ証券監査役 毎日放送顧問
顧 問	合田 順一	茨木商工会議所会頭
顧 問	寺本 博美	三重中京大学名誉教授
顧 問	西岡 健夫	追手門学院大学名誉教授

2023.1.1現在

◆所員・研究員の募集

① 所員・研究員の募集（教員）

ベンチャービジネス研究所の活動にご参加いただける教員（所員・研究員）を募集しております。ベンチャービジネスや事業承継についての調査研究活動・出版等の事業を実施しています。入所希望の方は事務局までご連絡ください。

② 学生研究員の募集

ベンチャービジネス研究所主催の企画や事業にご参加いただける学生研究員を募集しております。

- ・ビジネスプランの企画やプレゼンテーションなどについて学ぶ研究会
- ・北摂地域の魅力を発信するプロジェクト
- ・アイデアグッズやビジネスプランのコンテスト

その他さまざまなイベントを実施しています。

ベンチャービジネス、地域貢献などに興味のある方はぜひご参加ください。先生方からも学生にお声かけください。

Newsletter vol. 25

■ 編集・発行 2023年3月31日 印刷
2023年3月31日 発行

■ 編集代表者 村 上 喜 郁

■ 印 刷 所 川西軽印刷株式会社

■ 発 行 所 追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所
〒567-8502 茨木市西安威2-1-15
TEL/072(641)7374 FAX/072(643)9597
E-mail: ventureb@otemon.ac.jp
<http://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture/>